

# EIWA UNIVERSE

第20号

発行日 2019年8月7日

## 「SDGs COLLECTION supported by TGCLしずおか2019」へ学生がボランティアとして参加しました。

### ハイライト:

- TGCLしずおか2019へボランティア参加 (1p)
- イエスキリストの証し (3p)
- ディズニー・アカデミー (5p)
- ポータルサイトの利用について (7p)
- 中井弘和院長就任について (8p)

### 目次:

学長言	2
宗教委員会 ボランティアセンター	3
学科ニュース	4
研究室探訪	6
留学生センター 学部事務室	7
キャリア支援課 中井院長就任	8

2019年1月12日(土)静岡市のツインメッセを会場として、静岡市と東京ガールズコレクション(以下、TGC)がタッグを組み、「地方創生プロジェクト」&「SDGsの推進」を目指し、TGCLしずおか2019が開催されました。SDGsとは、持続可能な開発目標のことで、今回は、まずSDGsを知って、興味を持ってもらい、17の目標から自分らしい持続可能なゴールを目指してもらいたいということから、「What`s your GOAL?(あなたのゴールは何?)」がテーマでした。

本学からTGCLしずおかボランティアとして、リハーサルから本番まで出演モデルの衣装着替えのお手伝いをする「フィッター」、モデル集合写真撮影のアシスタント業務を行う「カメラアシスタント」、イベント出演者のインタビューの際、対象者を取材スペースにアテンドする「取材サポート」、会場内外に設置されるオフィシャルブース(オフィシャルグッズ販売、オフィシャルファンクラブ入会)の運営サポートをする「オフィシャルブース運営」、開催に伴う経済波及効果調査を目的とした来場者へのアンケートの回収「来場者アンケートスタッフ」に、計16名の



アロマハンドトリートメント体験 準備中・・・

学生が参加しました。

また、南館大展示場では【学ぶ・知る・つくる～体験ゾーン】【買う～SDGsマルシェ～】【ステージ～観る～】【グルメフェスティバル】が開かれ、そこに本学の大学ブースとして、

授業でアロマセラピーを学んでいる短期大学部現代コミュニケーション学科の6名が、午後1時半から午後3時までアロマハンドトリートメントの無料サービスを実施しました。この体験イベントは順番待ちができるほど大盛況に終わり、多くの方から好評を得ました。学生たちは、ハンドトリートメントを通して、ただマッサージをするだけでなくお客様との会話も大変重要な癒しの効果があることを学びました。

(企画部 川口)



静岡英和学院大学・静岡英和学院大学短期大学部 出展ブース

## 『蜘蛛の糸』について

学長 柴田 敏



柴田 敏  
(しばた さとし)  
学長

あくたがわりゆうのすけ か  
芥川龍之介が書いた、  
くも いと  
『蜘蛛の糸』という  
たんべんしょうせつ にほん  
短編小説があります。日本で  
ぎむきょういく う  
義務教育を受けていれば、  
きょうかしょ よ ひと  
教科書で読んだという人が  
おお みじか はなし  
多いでしょう。短い話です  
りゅうがくせい よ おも  
ら、留学生も読むとよいと思  
います。

おしゃかさま じごく  
御釈迦様が、地獄にいる  
かんだた ざいにん すく  
韃陀多という罪人を救ってやる  
ほそ くも いと た  
うと、細い蜘蛛の糸を垂らしま

かんだた くも いと じごく む  
す。韃陀多はその蜘蛛の糸につかまって、地獄から抜  
だ いっしょうけんめい  
け出そうと、一生懸命のぼります。ずいぶんのぼっ  
ひとやす とし した み おな  
て一休みしている時、ふと下を見ました。すると、同  
じごく ざいにん かんだた あと お くも  
じ地獄にいた罪人たちが、韃陀多の後を追って、蜘蛛  
いと かんだた  
の糸につかまってのぼってきます。韃陀多は、これで  
くも いと き おも おお  
は蜘蛛の糸が切れてしまうと思いました。そこで、大  
こえ さけ  
きな声で叫びます。

ざいにん くも いと おれ  
「こら、罪人ども。この蜘蛛の糸は己のものだぞ。  
まえ いっただれ き き お  
お前たちは一体誰に尋いて、のぼって来た。下り  
お  
ろ。下りろ。」

とたん くも いと かんだた き  
その途端、蜘蛛の糸は韃陀多のぶら下がっていると  
き かんだた じごく そこ  
ころから、切れてしまいました。韃陀多は、地獄の底  
お  
へ、まっさかさまに落ちてしまいました。

あくたがわりゆうのすけ さくひん しょうにん  
芥川龍之介の作品には、『きりしとほろ上人伝』  
ほうきょうにん し きょう かんけい  
『奉教人の死』など、キリスト教に関係するものが  
すく くも いと おしやか  
少なくありません。この『蜘蛛の糸』は、「御釈迦  
さま ごらく ぶつきょう せかい えが  
様」とか「極楽」とか、仏教の世界を描いていま  
す。ただ、ここに描かれる韃陀多の姿は、「隣人を  
じぶん あい  
自分のように愛しなさい」という聖書の教えに従え  
ない、弱い人の姿のように見えます。自分の利益を  
かんが じんげん よわ すがた  
考えることしかできない、人間のもっとも弱い姿で  
す。

かんだた わたし よわ  
韃陀多だけではありません。私たちも、みな弱い  
じんげん  
人間なのです。

よわ わたし  
その弱い私たちはどうすればよいのか。  
りんじん じぶん あい わたし  
「隣人を自分のように愛せない」私たちは、どうす  
ればよいのか。

じぶんじしん よわ みと  
まず、自分自身の弱さを認めることです。そして、  
よわ わたし しゅ よ き し  
弱い私のために、主がこの世に来てくださったと知  
ることです。

かみ ひと ご あた よ  
神は、その独り子をお与えになったほどに、世を  
あい ひと ご しん もの ひとり ほろ  
愛された。独り子を信じる者が一人も滅びない  
えいえん いのち え  
で、永遠の命を得るためである。(ヨハネによ  
ふくいんしょ  
る福音書3章16節)

おしゃかさま かんだた すく かれ いっびき  
御釈迦様が韃陀多を救おうとしたのは、彼が一匹の  
くも ころ ひと よ  
蜘蛛を殺さなかったという、たった一つの善いことを  
わたし しゅ じょうけん  
したからでした。私たちの主は、そのような条件な  
よわ わたし あい  
しに、弱い私たちをそのまま愛してくださるので  
わたし ほんとう いのち  
す。私たちに、本当の命をくださるのです。

## 宗教委員会

### イエスキリストの証し

今年もスチューデント・リトリートが、天城山荘に一泊二日の日程で(短大4月13~14日、四大4月14~15日)行われました。今年は「キリストを証しする」というテーマが選ばれました。主題聖句はローマ人の手紙1章16節で、「私は福音を恥としない。福音はユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力です」という使徒パウロの言葉から採られています。本学の教職員と学生が建学の精神のもとにひとつとなつて、一体感を感じられるようなリトリートにしたい。そんな願いと祈りが込められたテーマでした。そうした祈りを主なる神が聴かれたのでしょうか。引率や新任の先生方から、リトリートで一体感を感じられたという意見が寄せられました。リトリートを行うメリットは多くあげられますが、リトリートは単に新入生たちに早く大学生活に慣れてもらうために行っているのではありません。若き日に創造主なる神を知り、人生の目的と学問の探求の根本にキリストの真理がある、そのことを英和学院のすべての人に知ってもらうことにあるのだと思います。そうした意味で私たち宗教委員会にとって、今年のテーマは大切なものでした。「キリストを証しする」というように、一人ひとりのクリスチャン教員の信仰が試されるのです。自分自身の人生と教育活動において、キリストを証しているのか、福音を伝



える姿勢において、どこか心の奥に恥ずかしいという思いがあるのではないかと、そのような思いを神は試みておられるのです。

私から見ると、特に今年の新入生は優等生が多いと感じました。リトリートが終わってから、キリスト教学の授業に臨む姿勢は真剣なもので、学生たちの大半は休まずチャペルに来ています。ですが本当の意味でキリスト教のメッセージが届くのは、まだまだこれからだと思わされます。世間では今の時

代は分裂の時代だと囁かれています。しかし学生と教職員が集まり、週に一度、一緒に同じ時を過ごす、こうした一体感を感じられる機会は、今日の社会において大切なものと思わされます。

宗教委員会の課題としてあげられるのは、学生たちにとって精神的な支えとなるような、キリスト教のメッセージを届けることです。リトリートでは上級生たちが、学院生活の悩みや人生の問題について真剣に考えてきたことを

新入生たちに語りかけてくれました。そんな彼らの姿を見て、彼ら自身が英和学院の精神を証してくれたと思わされました。私たちの悩みや苦しみを受け止め、神の栄光と尊厳によって私たちを立たせて下さる、そんなキリストの御姿を伝えていきたい。(宗教主任 大坪)

## ボランティアセンターだより

### 「フクサポプロジェクト」のための 募金活動を行いました！

5月23日木曜日のお昼休みに、ボランティアセンター学生スタッフ募金チームが、ボランティアセンター国際チームの活動、「フクサポプロジェクト」に衣料品を送る送料を集めるため募金活動を行いました。

「フクサポプロジェクト」は、不要な衣料等をリユース・リサイクルするプロジェクトです。民間会社とNPOが連携して運営する事業で、日本全国で展開している活動です。家庭で眠っている衣料、クツ、カバン、服飾雑貨をフクサポへ送ることで、衣料をリサイクルして得られた寄付金では、カンボジアの地雷除去や、ラオスの不発弾処理に役立てられ、リユースされる衣料は東南アジアへの支援活動に役立てられます。

国際チームは、4月の半ばから5月末にかけて衣料の募集をし、段ボール2箱を送る準備が出来ました。その2箱分の送料を募金



チームが募金活動により集めます。

まず、広報チームが学内放送にて募金活動の広報をしてから募金がスタート！新館と本館の二手に分かれて、募金箱を手に、呼びかけをおこないました。



今回はボランティアセンターに入ったばかりの1年生も募金活動に参加し、フレッシュ感あふれる募金活動になりました。

募金総額は、3,966円でした。

学長をはじめ、教職員、学生のみみなさんには多大なご協力をいただき、ありがとうございました。

今後も、ボランティアセンターでは募金活動、ECOウォーク、絵本を海外に贈るといった様々な活動をしてまいりますので、皆さまのご協力をお願いいたします。(ボランティアセンター 佐野美)

## 人間社会学科



2019年度、人間社会学科では新入生221名と非常に多くの入学者を迎えることができました。本年度は新任教員2名を迎え、多数の新入生および在生を含めた全ての学生の為に気持ちを新たに人間社会学科の特徴である幅広い文系分野の

教養と5つのメジャー（心理、経済経営、観光地域デザイン、英語文化、日本語文化）の専門知識、そしてグローバル化する社会で活かせる判断力、実践力、コミュニケーション能力を育成し豊かな人間性を身に付けていけるように学科教員一同更なる研究・教育などに努力して参ります。

本学科においては様々な地域連携協定などにに基づき、教員と学生が様々な地域連携活動にも協力・貢献し、以下のような実践例が挙げられています。

- ・2019年5月、観光庁のホームページで本学人間社会学科の毛利康秀先生（観光社会学）が担当する課題解決型事業「地域創造フィールド

ワーク」の実践事例が紹介されました。これは本学と地域活性化団体「I Loveしずおか協議会」および呉服町・七間町の商店街と連携し、街の魅力や課題・改善策の抽出と提案を取りまとめるなどの成果を報告

・人間社会学科の横関隆登先生（観光学・造園学）は、「浴場利用者による温泉地に対する受益と負担の認識の特徴」で、日本学術会議協力学術研究団体である日本観光研究学会から第12回（2018年度）優秀論文賞を受賞しました。昨年度に続き2年連続の受賞。

・人間社会学科の崔瑛先生のゼミ学生が、用宗港周辺を取材して作った『用宗おさんぼマップ』が、2019年5月22日（水）のSBSテレビ「静岡発そこ知り」で紹介。

また、2019年度人間社会学科は就職率100%を達成することができました。これも皆様のご支援の賜物です。これからも人間社会学科で学んだ学生たちが、地域社会でまたグローバルにも活躍していく人材に育っていくことを願って学科教員一丸となり研究・教育に邁進していきます。英和生たちの活躍にご期待下さい。今後とも引き続きご支援を賜るようよろしくお願い申し上げます。  
(人間 古谷)

## コミュニティ福祉学科

国（厚生労働省）においては、「地域共生社会の実現」を掲げ、平成29年には「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部の決定に基づきその実現の具体化に向けた改革を進めている。住民主体による地域課題の解決力強化、包括的な相談支援体制の整備等の検討が行われている。

このような最新の動向を背景に、本学コミュニティ福祉学科専門演習・卒業研究（佐野）と先駆的な取り組みを実施する社会福祉協議会（愛知県長久手市社協）との連携事業であるCSW（コミュニティソーシャルワーカー）基礎研修事業も3年目を迎えている。長久手社協は、全国に先駆けて小学校区ごとに一人のCSWの配置をすすめ、地域力強化のモデル事業（厚生省HP参照）を実施する社協である。この連携事業において、昨年度は、4名の受講生のなかから1名が掛川市社協に専門職として入社している。

本事業の効果としては、本年度においても同様学生のソーシャルワーカー（SW）という専門職としての就職意欲、活躍意欲を非常に高めることである。本年度においても4名の学生が受講した。研修は、小学校区ごとに配置されているCSW（地域における福祉の何でも相談員）に同行し、アウトリーチ（訪問支援活動）、相談援助活動を体験することである。今回はそれらに加えて、近隣トラブルケース、夫婦間トラブルケース、精神疾患ケースなどの事例検討会に学生たちが参加し、社協のCSWと活発な議論を交わした。授業や演習、ゼミで考える事例検討とはまた違った感覚で、実際にCSWが取り組んでいる生きたケースに接することができている。なかでも

「学生である自分たちにもケースに対する見解を尋ねてくれた」と、学生とはいえ、「いちソーシャルワーカーの卵として尊重された」ことに、どの学生も非常に感銘を受けていたことが印象的である。地域で実際に働くソーシャルワーカーに付いて活動を見学し、関係機関の方々からの話を聞き、事例検討会に参加し、修了証を手にするこの意義は大変大きいものと感じている。



修了証を手に(中央に本学学生4名、両脇に長久手市社協CSW)

### CSW基礎研修の主な内容

- ・10時30分～ 事務局長による挨拶
- ・11時～ 移動（市内東部から、市が同小学校区等の状況確認をしながら市内西部へ
- ・11時20分～ 西小学校区共生ステーションにて CSW の事業説明、アウトリーチ同行

※近隣トラブルケース、夫婦間トラブルケース、精神疾患ケース等確認、アウトリーチ中、元民生委員から話を伺う

・12時15分 休憩

※近隣トラブルケースについて事例検討、質疑応答

・13時15分 移動

・13時30分～ 事例検討会：20代ひきこもり男性への支援について

・16時～ 質疑応答

・16時45分～ 全体のまとめ、修了証交付

・17時 終了

(コミ福 佐野治)

## 現代コミュニケーション学科

### ディズニー・アカデミー

現代コミュニケーション学科では、隔年でロンドン・パリ海外研修を行ってききましたが、テロがヨーロッパで多発しているため、海外研修を断念し、プログラムをディズニー・アカデミーに変更しました。

2月19日（火）静岡駅を7時20分に出発し、ディズニー前のホテル・ミラコスタで10時から講習を受けました。参加者は29名で、引率教員はリチャード先生と芦澤でした。余談になりますが、ディズニー・アカデミーへの



申し込み、切符等、すべてJTBに就職した現代コミュニケーション学科の卒業生が手配してくれました。その点とても感慨深いものがありました。

ディズニー・アカデミーのプログラムはグループワークで、2枚の親子のイラストを見ながら「もしあなたがスタッフ

だったら、どのように声をかけるか」などを想像したり、スタッフの方が実際に失敗した経験談などを話してくださいました。驚いたことにディズニーランドに細かいマニュアルはなく、スタッフ一人一人がお客様のため臨機応変に何をすればよいか、自分の頭で考えることが最も重要だということでした。学生たちはこのプログラムを受講して、ディズニーランドはアトラクションがただ楽しいだけではなく、スタッフのお客様への真摯な態度が土台となっているからこそ、リピーターを獲得できるのだと実感したようでした。学生たちがこのプログラムで学んだことを、就職先ではもちろんのこと、これから人間関係を築く上で、少しでも活かしてくれることを願っています。

（現コミ 芦澤）



## 食物学科

食物学科では、7年前より森永乳業株式会社のご縁をいただき「調理学実習Ⅳ」の一環として「チーズ講習会」を行ってきました。チーズ専門家による座学、世界のナチュラル



チーズの試食や乳製品尽くしの調理実習など、企業と連携することで、実践的でかつ質の高い学びを学生に提供することが出来るようになりました。そのような状況の中、本年3月に連携協定が締結されました。今後は、他の科目での講師依頼やインターンシップなどでもさらに連携を深めていく予定であります。

さて、2011年度から行ってきた静岡市の中山間地「梅ヶ島」とのプロジェクト（食でリフレッシュ！in梅ヶ島）が62頁の冊子になりました。第1回は、梅ヶ島小中学校での食育イベント、第2回は、地域（梅ヶ島）、学生、教員で行った「京都研修 Part1」、第3回は、在来作物をテーマにした「よみがえりのレシピ上映とシンポジウム」、第4～5回は「京都研修 Part

Ⅱ～Ⅲ」そして第6回は、総まとめとして座談会を地元梅ヶ島で開催しました。卒業生となった学生、他学科や他大学を含む教員、梅ヶ島や有東木の方など、総勢21人の原稿と座談会の様子が記録されています。食物学科の地域連携の軌跡として、また今後の地域連携の方向性を見定めていく上でも貴重な冊子となりました。ご興味のある方は、図書館にありますので是非ご覧下さい。

最後に嬉しいニュースをお知らせします。日本平線のバスに乗り合わせた県外の高齢の女性から「栄養士を目指す大学生2人に親切にしてもらい大変感謝している」との連絡が静岡市にあったそうです。食物学科は、これからも建学の精神を大切に、心豊かな学生を育てて参ります。



（食物 前田）

## 研究室探訪



### 望月 裕子

(もちづき ひろこ)

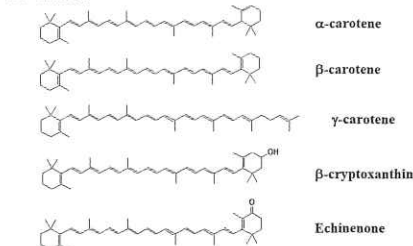
所属: 食物学科

職位: 准教授、短期  
大学部就職委員長

専攻分野: 栄養学、  
栄養教育・指導論

研究テーマ: レチノイ  
ドおよびカロテノイド  
の消化吸收ならびに  
代謝

Provitamin A



Vitamin A



図 カロテノイドとVitamin Aの分子構造

専門は栄養学分野で、栄養素の消化吸収とその代謝です。学生時代は中鎖脂肪酸（MCT）の代謝を観察しました。現在の医療現場で、重度の肥満や糖尿病患者に食事中脂質としてMCTを提供するのが当たり前ですが、1980年代にはまだ手探り段階の研究

でした。その後、ビタミンAに研究をシフトして、体内での代謝を観察してきました。では、研究の一部を少し御紹介します。

ビタミンはヒトの体内では合成できない微量栄養素です。脂溶性のビタミンAも同様で、私たちはビタミンAを動物性食品から、植物性食品からはカロテノイドをプロビタミンAとして摂取しています。代表的なカロテノイドは、左右対称構造をもつβ-カロテンで、ヒトやラットの小腸や肝臓で2分子のビタミ

ンAになります。この中央開裂反応を担っている酵素がβ-carotene 15, 15' dioxygenaseで、遺伝子はBCMO1です。また、α-カロテン、β-クリプトキサンチンなどもカロテノイドの仲間ですが、構造

上1分子のビタミンAにしか転換されません。余談ですが、野生に近いネコ科の動物には、カロテノイドをビタミンAに分解する酵素が存在しないと言われていました。つまり、食餌として動物由来のビタミンAを摂取しているため、酵素は不要なのです。

さて、哺乳動物のヒトやラットは、離乳期以降に植物由来のβ-カロテンを体内に摂取するようになりますが、この酵素や遺伝子の発現時期は解明されていませんでした。そこで、発達過程のラット小腸で酵素の活性変動を観察したところ、離乳期に酵素活性とBCMO1のmRNA発現量の増大がみられました。つまり、母乳から固形食へと食餌形態が変わる離乳期に、β-カロテンを2分子のビタミンAに換える酵素の準備が完了するということです。さらに、離乳期の酵素発現を甲状腺ホルモンが誘導することもわかりました。成長や発育が著しい離乳期が、哺乳動物にとって非常に重要な時期であるといった研究を行ってきました。

栄養学分野にとどまらず広い視野で探求心を持ち、今後も研究の幅を広げたいと思っています。

### 【地域貢献】

- 2013年度静岡新聞社・静岡放送主催「こども未来プロジェクト」伊比水産株式会社協賛事業（2013/10/13）
- 2011-2016年度食物学科プロジェクト「食でリフレッシュ! in 梅ヶ島」未来経営戦略地域交流事業
- 平成29・30年度静岡市食育推進計画「しずおかカラダにeat75」事業
- 2017年度公開講座講師「健康寿命について」（池田山団地自治会にて開催2017/8/31）
- 平成30年栄養士養成成功労者県知事表彰を受賞（平成30年静岡県健康福祉大会 2018/10/25）

### 【学生から】

個性豊かな学生が集う2年1組は、資格取得や各自の目標に向かい励んでいます。栄養士専門科目「栄養指導実習」では、食育や食生活指導の技法を学んでいます。1年次に学生食堂に展示した卓上栄養メモの中で私は、アルバイトで帰宅時間が遅い大学生に低エネルギーで栄養満点の献立を提案しました。栄養士学外実習でも、小学生にわかり易い食育を心がけるつもりです。また、計画中の楓祭出展の「カレーライス」販売を、クラス皆で盛り上げたいと思います。

(食物学科2年1組 鈴木歩維)



## 留学生センターだより

今年度、本学の外国人留学生は、大学が約150人、短大が約60人と、昨年度より全体では50人ほど増えています。4月24日（水）の昼休みには、新しく入学した留学生を歓迎する新入留学生との交流会が、本学の新館1階のラウンジで行われました。

このようなイベントについては、本学の留学生センター学生スタッフを中心となり、企画・運営をしています。展示物の制作や準備、会場の設営、広報、当日の司会と交流を促進する働きかけなど、学生スタッフがこうしたイベントをリードします。学生スタッフは毎年留学生センターで募集していますが、今年度も多くの日本人学生、留学生が参加を希望してくれました。留学生が充実した学生生活を送ることができるよう支援をすることと、交流を図ることを主な目的とした活動ですが、指導力を発揮する機会となったり、諸外国を身近に感じることができるなど、体験としても貴重なものとなると思います。



4月24日の新入留学生との交流会の様子

今年度も、楓祭や国際交流フェアなどで活躍する日本人学生スタッフ、留学生スタッフの活動に注目していただければありがたいと考えています。

(留学生センター 職員)

## 学部事務室

### ポータルサイトの利用について

ポータルサイトでは、履修登録や授業の休講、補講などの情報をいち早く確認することができます。休講情報や学生呼び出しなどは学内の電光掲示板でも確認することができますが、ポータルサイトは授業に関する情報ははじめ、大学からの情報を自宅のパソコン、スマホから閲覧できるメリットがあります。

大学としては、ポータルサイトをぜひ活用していただきたいと思います。ここでは、ポータルサイトの便利な利用法についてご紹介いたします。

#### 「履修登録」

ポータルサイトで前期・後期の初めに自分が履修する科目の登録をすることができます。

#### 「シラバス検索」

各科目の授業計画や評価方法・基準など詳細が記載されたシラバス検索が可能のため、自分の興味のある授業を簡単に調べることができます。

#### 「教務掲示一覧」

休講・補講情報、時間割の変更、講義連絡、レポート課題についての情報を見ることができます。休講情報などは余裕を持って事前に周知していますが、突発的に休講になる場合もあります。大事な情報を見逃さ

ないためにも、毎日確認する習慣をつけていただきたいと思います。

#### 「My時間割」

履修登録した科目を曜日別に切り替えて表示することができ、スケジュール管理にも大変役立ちます。また、科目ごと教室も表示されますので勘違いも防ぐことができます。

#### 「メッセージ転送設定」

大学からのポータルサイトの情報は、自身の持つメールアドレス宛にメッセージを転送することができます。転送設定がされているか是非確認してみてください。転送設定をしておけば、大切な情報を見落とすこともありません。緊急な情報はポータルサイトを通じて発信されますので、必ず転送設定をしておくようにしましょう。

(学部事務室 岩品)



## キャリア支援課

5月18日（土）に就職を希望する大学1年～3年生、短大1年生の保護者の皆さまを対象に、2019年度第1回「保護者ができる就職支援」セミナーを開催いたしました。今年で開催5年目となります。

第1部では本学の就職状況や就職支援についての報告と株式会社リクルートキャリアの長島麻衣氏より、近年のインターンシップの実情などについてお話しいただきました。

第2部では、毎回保護者の皆さまからご好評いただいている、聖徳大学 聖徳ラーニングデザインセンター准教授 天川勝志氏



に「保護者ができる就職支援」～お子さまの10年後を見据えたキャリア形成支援を考える～と題し講演していただきま

した。低学年時からのキャリア形成支援や自分の価値を高める取り組みの重要性、すぐに辞めない会社選びなどについてお話しいただきました。



ご参加いただいた方の多くからご好評いただきました。セミナー終了後に質問をしていかれる方も多く、保護者の皆様の熱心な様子に教職員一同も身が引き締まる思いがいたしました。

第2回「保護者ができる就職支援」セミナーは、12月7日（土）に開催いたします。詳細につきましては、本学HP及び対象学年の保護者の皆さまへ郵送にてご案内いたします。是非ご参加ください。

（キャリア支援課 小田）

## 【本年4月1日より、中井 弘和 氏が院長として就任しました。】



本年4月1日より、中井 弘和（なかい ひろかず）氏が本学院の院長に就任しました。

中井院長は、1939年生まれでクリスチャン。農学博士で、専門は植物育種学。教え子には食物学科長の前田節子先生がおります。

経歴は、京都大学農学部助手、静岡大学農学部助手、静岡大学農学部助教授を経て、1989年に静岡大学農学部教授、1995年に静岡大学農学部長、2000年に静岡大学副学長を

歴任し、現在は社会福祉法人静岡いのちの電話 理事長や、公益財団法人農業・環境・健康研究所 技術顧問も務めています。また、2011年からは本学院の評議員を務めています。

中井院長から在学生の皆さんに向けてメッセージをいただきました。

「若い人たちの『いのち』への豊かな感性を信じています。新しい時代を創るのは、みなさん一人ひとりです。」

中井 弘和



静岡英和学院大学  
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY

〒422-8545

静岡市駿河区池田1769

TEL 054-261-9201

FAX 054-263-4763



静岡英和学院大学短期大学部  
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

最新情報 <http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>

ご意見・ご感想 [info@shizuoka-eiwa.ac.jp](mailto:info@shizuoka-eiwa.ac.jp)

企画・編集 学報委員会